

研究主題

協調して課題解決を目指す生徒の育成
～協働的な学習活動と開発的生徒指導を通して～

1 主題設定の理由

本校は令和2年度から「他とのつながりの中で学ぶ生徒の育成」を主題として一貫して研究を進めている。昨年度の総括により、主に3つの視点に沿って研究・実践と実践を積み重ね、主題に迫っていくつもりである。

第一に主体的に取り組み、協働して学習を進める授業への改善の研究を進めることである。昨年の授業改善のアンケートから、改善は進んできていると考えられる。本年度は教科の特性に応じた「学びあい」を研究・実践することで生徒の学習意欲を喚起し、学習に対する自信や満足度を育てたいと思っている。また、研究授業の実施により、教科・学年の共通の課題が見つかり、その点についても研究を深めたい。

<令和4年度1学期末から2学期末への変容 アンケート結果より>

1. 授業のめあてが示されている	「よくあてはまる」が+5.3ポイントで71.5%
2. 授業のまとめが行われている	「よくあてはまる」が+1.4ポイントで47.1%。「まあまああてはまる」を加えると83.5%。「まったくあてはまらない」が-9.9ポイントで3.6%
3. 書く活動が充実している	「よくあてはまる」が+23.4ポイントで54.9%。「まあまああてはまる」を加えると86.6%
4. 友人と協力する学習が行われている	「よくあてはまる」が+32.8ポイントで61.4%
5. 授業がよくわかる	「よくあてはまる」が+5.6ポイントで46.7%。「まあまああてはまる」を加えると89.1%
6. 基礎学力タイムは充実していた	「とても充実」が-5.3ポイントで61.4%。「あまり充実していない」が倍増で6.0%
7. 1日あたりの家庭学習時間	「2時間以上」3年生は全国調査比で+14.3ポイントの38.7%。2年、1年ともに11.5%

第二に基礎学力の充実である。以下は、昨年度の標準学力検査であるが、教科によっては平均点に届かないものもあり、改善を図る必要がある。前述のアンケートより、基礎学力タイムの運用法に課題が提示されている。実践方法を工夫し、全職員で取り組み、個に応じたきめ細かい取り組みをおこない、学びを支援していきたい。

<令和5年1月実施 標準学力検査>

		国語	社会	数学	理科	英語	平均
1年	本校	58.4	59.4	54.0	53.7	54.1	55.9
	平戸市	59.4	55.9	49.6	55.1	47.2	53.4
	全国	59.0	61.5	50.9	56.9	51.4	55.9
2年	本校	69.3	44.4	43.2	46.4	49.7	50.6
	平戸市	63.8	45.0	42.2	47.7	44.3	48.6
	全国	68.5	48.7	50.5	51.3	54.2	54.6

*全国平均より 青 ≧ 全国 > 黄色 ≧ -3 > 赤

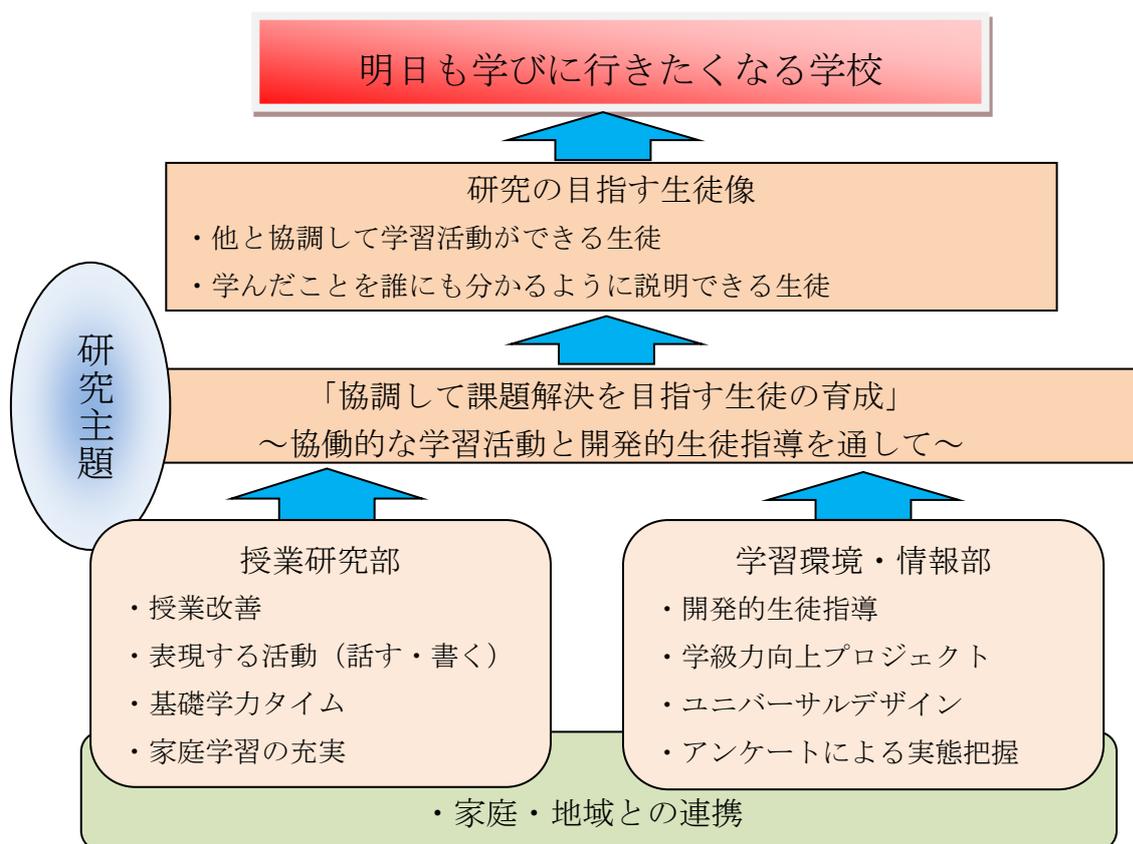
第三に学習環境の充実である。他との協調にはその基盤となる学級力の向上が大切であり、開発的生徒指導をすすめることが肝要であろう。また、ユニバーサルデザインに基づく教室・校内環境を見直し、すべての生徒が活躍できるようにする。さらには、地域・家庭との連携を深めることにより、生徒の学びの環境をトータルで整えていくようにしたい。

学びは「個」のものであるが、同時に「集団との関わり」の中で発見され深められるものである。協働し、支えあいながら自ら学んでいく生徒を目指し、研究を進めることで、本校の学校教育目標である「豊かな心を持つ生徒を育成する。」「確かな学力をもつ生徒を育成する。」「心身ともにたくましい生徒を育成する。」の達成に迫ることができるであろう。

2 めざす生徒像

- ① 他と協調して学習活動ができる生徒
- ② 学んだことを誰にも分かるように説明できる生徒

3 研究構想図



4 研究内容

(1) 各教科による授業改善

- ・生徒が主体的に取り組むことができる教材開発や授業形態の在り方。
- ・「学びあい」、協動的な学習活動のより良いあり方。
- ・「話したり・書いたり」と学んだことを説明する活動の奨励。
- ・研究授業の実施により、授業力を高める。

(各自1回実施、全体研究授業および授業研究会1～2回)

- ・各教科による、基礎的事項の洗い出しと到達目標の設定
- ・基礎学力タイムの効果的な運用による生徒の基礎学力向上

(2) ユニバーサルデザインに基づく、より良い学習環境と集団力の向上

① 掲示教育の改善

- ・教室や校舎内の掲示物の配置

② どの子ども活躍の場がある開発的生徒指導

③ 学習規律の見直し

(3) 家庭と連携した基本的生活習慣の在り方

① 生活習慣の確立(食事・睡眠)

② メディアコントロール

③ 家庭学習習慣の確立

5 研究組織

- ① 研究推進委員会・・・校長・教頭・教務主任・研究主任・各研究部長により構成。
取り組みの方向付けおよび進行状況の確認。

② 研究部

< 授業研究部 >

- ・研究授業や授業研究会の企画運営
 - ・「学びあい」学習の授業改善及び基礎学力タイムの活用法、家庭学習の改善など
- ・基礎学力向上をめざす

< 学習環境・情報部 >

- ・開発的生徒指導や学級力向上プロジェクト
- ・ユニバーサルデザインの視点に立った校舎や教室、掲示など
- ・アンケートによる状況把握と分析等

- ③ 全体会・・・・・・授業研究会や研修会など全体の研修や、情報のシェアなど。

6 年間計画

月	研究項目・内容
4	○推進委員会(研究主題・研究内容の検討) ○全体会(研究主題の決定)
5	○推進委員会 ○2部会(本年度の活動計画作成)
6	○2部会(活動) ○研究授業スタート(2月まで)
7	○2部会(活動反省) ○授業改善アンケート
8	○全体会(全体研修会) ○各種研修会の伝達講習
9	○推進委員会(2学期の活動確認) ○2部会(2学期の活動確認) ○全体研修会<中心授業>(研究授業・授業研究会)
10	○2部会
11	○授業改善アンケート ○全体研修会<中心授業>(研究授業・授業研究会)
12	○2部会(2学期活動反省) ○推進委員会(2学期の反省と3学期の確認)
1	○2部会(活動計画確認)
2	○2部会(1年間のまとめ)
3	○推進委員会 ○全体会

7 学力向上プラン

方 策 1	学んだことを誰にも分かるように説明できる力を身に付けさせる。
具体的な取組	○授業の中に、協働的な学習活動を取り入れる。 ○授業の中で、ワークシート等を活用して「書く活動」を取り入れる。 ○定期テストでは、文章で説明させるような記述式問題を1問以上出題する。 ○基礎学力タイムを設定する。
検証方法:目指す検証結果	○定期テスト:記述式問題の無回答0を80%以上、ほぼ満足できる解答(7割の達成率)を70%以上とする。 ○学期末の授業改善アンケート:授業満足度70%以上
方 策 2	1日2時間以上の家庭学習を定着させる。
具体的な取組	○自学ノートを持たせ、1日1ページ以上、各学習に取り組ませる。 ○自学ノートの提出を毎日チェックし、学習内容について助言する。 ○優れた自学ノートについて、教室掲示などで紹介する。 ○書くことが苦手な生徒には、クロームブックの利活用を認める。
検証方法:目指す検証結果	○授業改善のアンケートの家庭学習時間2時間以上の回答を35.2パーセント(全国平均)以上を目指す。

